

組織目標評価報告書(平成30年度)

33

部局名: 自然生命科学研究支援センター

部局長名: 竹内 大二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>【光・放射線情報解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法令に基づく新規教育訓練講習会(津島施設2回、鹿田施設6回) 再教育訓練講習会(3回) 英語による新規教育訓練講習会(1回) 全学X線安全教育の実施 医学部医学科基礎放射線学の講義と実習の実施(鹿田施設) 医学部保健学科放射線技術科学の実習受入れと支援(通年)(鹿田施設) <p>【動物資源部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物実験施設の利用者研修会の開催 法令に基づく教育訓練講習会の開催(英語でも実施する) 学部等で実施されている実習等学部教育を担う 新規に動物実験を始める学生及び留学生に対して初心者実技講習会を開催する。 インターン実習の受け入れ <p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 組換えDNA実験教育訓練(日本語:4回以上・英語:1回以上) 放射線業務従事者新規・再教育訓練講習会(2回・3回)(学部講義を含む) ゲノム・プロテオーム解析に関する技術講習会(1回以上)。 教育の実施体制(組織的なFD, 教員のインセンティブ向上を含む)について 教育方法・内容について 教育の成果(学習の成果, 卒業後の進路)について 学生支援について <p>【分析計測・極低温部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 機器利用説明会・セミナー等(法令に基づくものを含む)(7回以上) 機器利用訓練・資格試験(4回以上) 学生ユーザー数(150名以上) <p>【設備技術サポート推進室】</p> <ul style="list-style-type: none"> 機器分析セミナー・技術講習会等の開催 	<p>【光・放射線情報解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法令に基づく新規教育訓練講習会(津島施設2回、鹿田施設6回)を実施した。 津島施設:4/25(実習は4/26, 5/2), 10/17 鹿田施設:4/16-17, 4/19-20, 6/11-12, 9/6-7, 11/12-13, 1/3-4 再教育訓練講習会を実施した。予定は3回であったが臨時並びに新たに英語再教育を追加実施した。 年度途中の再教育訓練は前述の計画以外にも要望があれば随時行った。 津島施設:3/11, 3/11(英語), 3/22, 3/27 鹿田施設:3/5, 3/6(英語), 3/7 英語による新規教育訓練講習会(3回)を実施した。計画は1回であったが要望を受け、複数回実施した。 鹿田施設:4/18, 9/5, 11/16 全学X線安全教育の実施をeラーニングで実施した(通年)。 医学部医学科基礎放射線学の講義と実習(鹿田施設)を実施した(通年)。 医学部保健学科放射線技術科学の実習受入れと支援(通年)(鹿田施設)を実施した。 <p>【動物資源部門】</p> <p>実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減の基準の解説書(環境省動物愛護室編集)が出版され、教育訓練に関しては管理者等と動物実験実施者向けに別々に行うことが求められるようになった。そこで動物実験委員会において、従来の教育訓練を動物実験に関わる全てを対象とし、各施設で行っている利用研修会を動物実験実施者対象のものとして位置付けた。また、オプションの初心者実技講習会も教育訓練のメニューに加えるとともに、医歯薬学総合研究科(医学系・歯学系)の研究手法論基礎に組み込むこととなった。具体的な達成状況は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物実験施設の利用者研修会:鹿田施設11回、津島北施設10回、津島南施設10回 動物実験委員会の教育訓練を16回開催(内英語で2回開催) 医学部医学科生物学実習当(合計24時間)を分担した。 他に医学部医学科講義2時間・医歯薬学総合研究科(医系)講義2時間、農学部講義1時間を分担した。 マウス・ラット初心者・初級の実技講習会を9回行った。 広島アニマルケア専門学校動物看護コースの学生2名のインターンシップ実習を行った。 <p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 組換えDNA実験教育訓練を計13回実施した。このうち、6回は外国人留学生用の英語の教育訓練を実施した。 放射線業務従事者教育訓練を2回、再教育訓練を3回実施した(光・放射線情報解析部門と共同)。 機器講習会(超遠心機、次世代DNAシーケンサー、質量分析装置、マルチモードプレートリーダー)を計4回実施した。 薬学部の学部・大学院講義・実習、農学部の学部講義の講義を担当した。 博士3年1名、修士2年2名、修士2年1名、学部4回生3名、学部3回生3名の研究・教育指導した。進路は岡山大学院の進学、小野薬品工業に就職した。設備・サポート推進室のマイスター制度を利用し、その教育にも努めた。 <p>【分析計測・極低温部門】</p> <p>多くの学生へ高度な分析機器を使用した実体験的な教育訓練を実施することにより、教育の高度化と研究力の向上に貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 機器利用説明会・セミナー等(法令に基づくものを含む)(7回以上) : 19回 極低温分野安全講習会、共用装置の講習会16回、セミナー・技術強化講習会など3回 機器利用訓練・資格試験(4回以上) : 4機器、7回 学生ユーザー数(150名以上) : 340名(分析計測分野:設備NW予約システム登録数) <p>【設備技術サポート推進室】</p> <ul style="list-style-type: none"> 機器分析セミナー・技術講習会等の開催 : 5回
①-2 年度計画との関連	①-2 大学全体への貢献
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況

②研究領域

②-1 目標

- 【設備技術サポート推進室を除く各部門】
- ・研究成果論文の公表(1編以上/各部門)
 - ・学会発表(1回以上/教員/各部門)
 - ・外部研究資金獲得のための応募(1件以上/教員)
 - ・学内外における共同研究の推進

②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組

- 【光・放射線情報解析部門】
- ・研究成果論文の公表(1編以上/各部門):今年度の投稿は1件であった(教授)。
 - ・学会発表(1回以上/教員/各部門):今年度の学会発表は教授3件(中国地区放射線影響研究会,日本放射線影響学会,京都大学複合原子力研究所研究会),助教2件(中国地区放射線影響研究会,日本放射線化学会)であった。
 - ・外部研究資金獲得のための応募(1件以上/教員):今年度の外部資金応募は教授4件(審査中),助教1件(採択済)であった。
 - ・学内外における共同研究の推進:学外共同研究は教授5件(京都大学複合原子力研究所共同研究,近畿大学原子力研究所共同研究,広島大学原爆放射線医科学研究所共同研究,放射線医学総合研究所共同研究,佐賀大学客員研究員),助教1件(京都大学複合原子力研究所共同研究)であった。また,企業との共同研究開始に向けて協議を行った。
- 【動物資源部門】
- 教員の科研費申請2件(内1件は平成29年度新規採択の継続交付申請),共同研究していた論文1編のアクセプト,科研採択に伴い広島文化大学の教員と共同研究体制を構築,日本実験動物技術者協会総会記念シンポジウムにおいて座長を務めるとともに2演題発表を行った。
- 【ゲノム・プロテオーム解析部門】
- ・研究成果論文の公表:4報(査読有,総説含)
 - ・学会発表:4件
 - ・外部資金の獲得のための応募:14件(うち,5件の採択は確定)
 - ・学内外の共同研究:10件(岡山大学IPSRの2研究室,異分野基礎科学研究所,大日本住友製薬,味の素株式会社,名古屋大学理学部,高エネルギー加速器研究機構,UCSF,慶応義塾大学医学部)
 - ・大学連携設備ネットワークの支援を利用し,共同利用機器の拡充に努めた(186万2千円の支給で,超遠心機のローターを追加した)。
- 【分析計測・極低温部門】
- ・研究成果論文の公表(1編以上/各部門): 2編/3教員
 - ・学会発表(1回以上/教員/各部門): 3回/3教員
 - ・外部研究資金獲得のための応募(1件以上/教員): 4件/3教員
 - ・学内外における共同研究の推進: 8件/3教員

②-2 年度計画との関連

②-2 大学全体への貢献

②-3 目標とする(重要視する)客観的指標

②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況

③社会貢献(診療を含む)領域

③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>【光・放射線情報解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射能による環境汚染対策について関連諸団体との連携をはかり、協力及び支援をする。 原子力規制庁と連携し、分子イメージング技術利用推進検討会を開催する。 岡山県及び放射線関連諸団体との連携を図る。 <p>【動物資源部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会人向けの動物実験技術講習会の開催又は開催支援を行う。 臨床医教育の実施箇所として動物実験施設の活用(動物実験施設での開催支援)。 動物実験関連領域の学会、協議会等の運営に関与する。 <p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生を対象とした、組換えDNA実験指導を実施する(1回以上)。 学外のプロテオーム受託サービスを行う(中国地区国立大学間連携を含む)。 ゲノムプロテオーム解析に関する機器講習会・技術講習会の学外開放。 地域社会との連携、社会貢献 <p>【分析計測・極低温部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外依頼分析サービスの実施(4測定項目以上) 機器利用説明会・講習会・機器見学会などの学外開放(5回以上) 産学官連携行事への参加(1回以上) 学外利用研究室数(8研究室以上) <p>【設備・技術サポート推進室】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産学官連携行事・広報行事への参加(1回以上) 機器分析セミナー・講習会・シンポジウム等の学外開放行事(2回以上) 	<p>【光・放射線情報解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射能による環境汚染対策について関連諸団体との連携を図り、協力及び支援をした。 原子力規制庁と連携し、分子イメージング技術利用推進検討会を開催した(11月21-22日)。 岡山県及び放射線関連諸団体との連携を図った(日本アイソトープ協会、大学等放射線施設協議会)。 <p>【動物資源部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内向けのマウス・ラット初心者講習会(10回)のうち1回を学外から受け入れ、地域に貢献するとともにわずかながら学外からの収入を得た。平成30年度の目標達成状況は次のとおり。 社会人向けのマウス・ラット上級技術講習会(1回)、フタ取扱初級講習会(1回)、マウス・ラット初心者講習会(1回)を開催した。また、学内向けのマウス・ラット初心者講習会(9回)を開催した(参加費有料)。 学内向けにTAKE法ゲノム編集マウスの作成セミナー、Cas-Crisperゲノム編集セミナーを各1回実施した(参加費無料)。 臨床医教育(麻醉蘇生学主催セミナー)に関して1回の支援を行った。 動物実験関連領域の学協会活動では、7月より国立大学法人動物実験施設協議会幹事施設を務めている(教員1名が同協議会中型動物委員長及び他2委員を兼任)。 10月まで教員1名が一般社団法人日本実験動物技術者協会理事(企画調整部長)、10月より技術職員1名が理事(関西支部長)として同協会の執行部に役員として関与している。また、他2名の職員が関西支部に役員として関与している。 岡山実験動物研究会会長及び事務局、その他、学会の評議員、事務局等で延べ4人が関与している。 広島アニマルケア専門学校の講義に職員1名を非常勤講師として派遣した。 <p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生を対象とした組換えDNA実験指導:1回 学外のプロテオーム受託サービス:5件(13サンプル、238万円) 大学連携設備ネットワークの支援を利用し、他大学向けの質量分析講習会を実施した。 学内の機器・技術講習会を学外に開放した。 高校生の施設見学:6件+オープンキャンパス 薬学部の公開講座の講師:1件 <p>【分析計測・極低温部門】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外依頼分析サービスの実施(4測定項目以上):6項目 FT-NMR, CHN元素分析, X線回折測定, 単結晶X線構造解析, ペプチド配列解析, 質量分析測定 機器利用説明会・講習会・機器見学会などの学外開放(5回以上):10回 産学官連携行事への参加:2回 学外利用研究室数:27 国立大学法人10校14研究室, 公立大4校4研究室, 私立大6校7研究室, その他企業2団体, 2研究室 <p>【設備・技術サポート推進室】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同利用設備/施設という実体に基づく学外連携、地域貢献体制の構築に努めた。 産学官連携行事・広報行事への参加:2回 岡山理大との交流会, リサーチパーク研究展示会ポスター 機器分析セミナー・講習会・シンポジウム等の学外開放行事:5回 分析技術セミナー5回(うち実機デモ付2回), シンポジウム1回
③-2 年度計画との関連	③-2 大学全体への貢献
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況

④センター業務

④-1 目標

【光・放射線情報解析部門】

- ・日常業務を適正に実施する(放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理、など)。
- ・ホームページを随時更新し充実をはかる。施設ニュースを発行する。
- ・全学のX線の安全管理を遂行する。
- ・核燃料物質についての全学安全管理を遂行する。
- ・OMIC事業の推進のための支援業務を遂行する。

【動物資源部門】

- ・動物実験施設のSOP等を充実し、利用者への啓発を行う。
- ・中型動物を用いた研究支援体制を整備、OMICとの連携を図る。
- ・マウスを用いた動物実験実施環境の整備。
- ・動物資源部門鹿田施設・津島北施設年報等を発行する(1報以上)。
- ・Webを使用した施設利用及び動物実験管理システムの整備(1項目以上)。
- ・動物実験委員会と連携して学内点検を行う(1回以上)。

【ゲノム・プロテオーム解析部門】

- ・組換えDNA実験のコンプライアンスを徹底する(安全管理、実験申請HPの充実、実験室の点検)。
- ・ゲノム・プロテオーム解析機器の利用を促進する(講習会:1回以上、学内のプロテオーム受託サービス)。
- ・放射性同位体実験の安全管理、作業環境測定の実施。
- ・部門内での組換えDNA動物の飼育管理(受託業務を含む)。

【分析計測・極低温部門】

- ・設置機器共同利用の充実(学内利用研究室数100以上)
- ・学内依頼分析サービスの実施(4測定項目以上)。
- ・作業環境測定の実施(測定研究室数 40以上、測定単位作業所数 100以上)
- ・学内液体窒素および液体ヘリウム供給体制の充実。
- ・広報誌の発行およびホームページの充実。

【設備・技術サポート推進室】

- ・設備サポートセンター整備事業(設備リユース、設備の共同利用化等の支援)の遂行

④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組

【光・放射線情報解析部門】

- ・日常業務を適正に実施した(放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理、など)。
- ・ホームページを随時更新し充実を図った。施設ニュースを発行した。
- ・全学のX線の安全管理を遂行した(施設長である統括放射線安全管理主任者がエックス線管理の再調査と見直しを行っている)。
- ・核燃料物質についての全学安全管理を遂行した(施設長である統括放射線安全管理主任者が計量委員会を開催、全学計量管理規程の改定を指示、実施中)。
- ・OMIC事業の推進のための支援業務を遂行した(通年)。

【動物資源部門】

- ・施設マネージメントの効率化・技術職員のやる気を起こさせ、鹿田施設において以下の利用料金(2月28日まで実績)を得た。
利用用収入73,549,148円(内動物飼育以外の業務:マウス胚凍結関連業務 42件(利用料実績2,540,000円)、血液分析業務 76件(利用料実績464,520)、動物検疫 8件、中型動物支援29件(利用料実績588,152円)、IVIS装置の利用料実績89件858,000円、X線CT装置の利用料実績150件1,116,800円、X線照射装置の利用料実績130件1,000,000円 = 合計利用料収入7,267,472円)
- ・動物実験計画書の事前審査件数は983件であった。
- ・防災マニュアルを作成した。
- ・中型動物を用いた研究支援を行った。このうちOMICとの連携が必要なものは15件であった。
- ・ゲノム編集等を用いた実験動物の作出支援で使用する機器の整備を行った。
- ・鹿田施設4階マウス飼育区域に利用料金を原資として飼育架台とセーフティーキャビネットを整備した(4階の空きスペースの消失)。
- ・部門ニュースを3回発行した。
- ・通常、300~600万円のソフトウェアコストが必要なデータベースシステム(岡山大学動物実験計画トレーシングシステム)を6万円で整備した。
- ・岡山大学における登録してある動物実験室、全室の目視点検を実施した。

【ゲノム・プロテオーム解析部門】

- ・部門の日常業務は全て行った。
- ・組換えDNA実験計画書の申請件数は285件(審査会は40回)(2/27時点)。
- ・組換えDNA実験安全管理委員会と連携し、組換えDNA実験に関する施設の点検を継続し、安全管理体制の構築を図った。
- ・学内利用者へのゲノム・プロテオーム解析の機器講習会を4回実施した。
- ・学内のプロテオーム受託サービスを9件(27サンプル、48万5000円)実施した。
- ・遺伝子組換えマウスを飼育管理した(搬入計472匹)。

【分析計測・極低温部門】

- ・設置機器共同利用の充実(学内利用研究室数100以上): 163
- ・学内依頼分析サービスの実施(4測定項目以上): 6項目
- ・作業環境測定の実施(測定研究室数 40以上、測定単位作業所数 100以上)
測定研究室数 のべ54、測定単位作業所数 のべ151
- ・学内液体窒素及び液体ヘリウム供給体制の充実。
・液体窒素 供給量:55,000kg 供給回数:5,000回
ユーザ数:120グループ(供給先には共同利用装置も含む)
- ・液体ヘリウム供給量:30,000L 供給回数:400回
ユーザ数:20グループ(供給先には共同利用装置も含む)
- ・広報誌の発行及びホームページの充実。
広報誌発行 2018.4
分析計測分野HPの改良充実、情報更新回数41 おしらせ10回、イベント19回

【設備・技術サポート推進室】

- ・全学共用設備の整備及び支援員の確保に向けた新しいシステムを施行した。
- ・設備サポートセンター整備事業(設備リユース、設備の共同利用化等の支援)の遂行
設備サポートセンター整備事業シンポジウム(学内外参加者146名)を主催
設備・技術への費用支援(2項目、設備14、技術5=19件)、
学生マイスター制の試行2年目、訓練生3名、セミマイスター4名)
設備マスタープラン策定の作業グループからの調書を取りまとめ
リユース仲介WEBサイト 情報登録61件、仲介成立45件
近隣大学との「共同利用に関する覚書」の締結:4校
広報:推進室HP情報更新回数46 おしらせ26回 イベント15回 ピックアップ3回

④-2 年度計画との関連

④-2 大学全体への貢献

④-3 目標とする(重要視する)客観的指標

④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況

⑤管理運営領域

⑤-1 目標	⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>【光・放射線情報解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none">・老朽化設備等を計画的に更新する。・中性子医療研究センターとの連携、協力を推進する。・機器・設備の利用者講習を行う。・法令改正に伴う全学対応を行う。 <p>【動物資源部門】</p> <ul style="list-style-type: none">・津島地区の動物実験施設の統合化・効率化を図る。・3つの動物実験施設の定期的な保守管理を行い、施設設備機能を維持する。・鹿田施設に関しては、共同利用可能な機器を実験室に整備する。・職員の衛生管理者資格の取得を推奨し、日常的に安全衛生視点での目視点検を実施する。 <p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none">・組換えDNA実験の安全管理に関する講習会に参加する(全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会:2回)・中国地区バイオネットワーク連絡会に参加し、共通機器の共同利用推進、組換えDNA実験に関するコンプライアンスの徹底に努める。・研究に必要なコンプライアンス講習会をその都度、受講する(組換えDNA実験、RI実験、動物実験、研究倫理)。・部門HPの充実。 <p>【分析計測・極低温部門】</p> <ul style="list-style-type: none">・機器管理者と協力して、安全衛生管理に努める。・施設保全に努め、老朽設備更新の申請を行う。 <p>【設備・技術サポート推進室】</p> <ul style="list-style-type: none">・本学全体の研究設備整備、および技術支援強化のための支援体制を改善強化する。 <p>【センター共通】</p> <ul style="list-style-type: none">・センター各部門の支援による教育・研究の貢献度についてIRを進めるため、論文(卒業論文等も含む)、利用者数を把握する。	<p>【光・放射線情報解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none">・老朽化設備等を計画的に更新している。今年度は5階吸気系統の更新を実施した。来年度は残りの全館吸気系統・排気系統の更新を予定。・中性子医療研究センターとの連携、協力を推進した(中性子医療研究センター客員研究員室の提供、今年度より同センターに研究スペースを提供)。・機器・設備の利用者講習を行った(液体シンチレーションカウンタ講習会2/7, Ge半導体検出器講習会2/12)。・法令改正に伴う全学対応を行った(施設長が統括放射線安全管理主任者として予防規程改定, 教育訓練改定を主導)。 <p>【動物資源部門】</p> <ul style="list-style-type: none">鹿田施設で使用停止した飼育装置を津島南施設に移設する等、津島地区の動物実験施設と統合的な運営を行うとともに施設設備等の保守点検を実施, 施設設備機能の維持を行った。また, 分析装置の共同利用を行うとともに施設利用者の要請に応えての共同利用機器の整備を行い, 目標は達成された。具体的な取組は次のとおり。・歯学部が購入したin vivoイメージングシステムの共同利用化(鹿田施設)・工学部が購入したin vivoイメージングシステムの共同利用化(津島北施設)・ヤギ観察ケージとブタリカバリーケージの整備(鹿田施設)・技術職員1名が国立大学法人動物実験施設協議会高度技術研修に参加し, 技術(ゲノム編集マウスの作製)導入を果たした。また, 3名を京大霊長研コモンマームセット研修会及び生理科学研究会に派遣した。・鹿田施設が感染症法によるカニクイザルの輸入施設としての許可を得た(申請から2年) <p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】</p> <ul style="list-style-type: none">・組換えDNA実験の安全管理に関する講習会に2回参加した。・中国地区バイオネットワーク連絡会に参加し, 共通機器の共同利用を推進した。・研究に必要なコンプライアンス講習会にその都度参加した。・HPIはその都度更新し, 広報活動した。 <p>【分析計測・極低温部門】</p> <ul style="list-style-type: none">・機器管理者と協力して, 安全衛生管理に努める。・全18測定室について, 管理した。・施設保全に努め, 老朽設備更新の申請を行う。・施設改良工事3件(214号室解析室整備, 312号室排気システム, 院108号室エアコン設置)・NMR概算要求, マスタープラン設備台帳 15台・設備NW加速事業助成H30採択 2件・発表論文(2018年公表, 卒業論文は含まない): 218報(全装置のべ, 暫定数)・利用者数:(設備NW登録者数):654 <p>【設備・技術サポート推進室】</p> <ul style="list-style-type: none">・本学全体の研究設備整備, 及び技術支援強化のための支援体制を改善強化する。・設備マスタープラン作業ブルーの形成支援・学生マイスター制度の制定と, 労務管理支援
⑤-2 年度計画との関連	
<p>【67-1】学内外のデータ等に基づいた意思決定を行うため、分析結果のPDCAサイクルを継続的に機能させることで、IR・IEの強化・実質化を図る。</p> <p>【82-2】設備整備費用の抑制を図るため、設備の共同利用化の促進等に向けた情報共有のシステム整備・充実を行うとともに、共同利用、リユース等を推進する。</p> <p>【82-1】学内で保有している機器の設置・使用状況等を把握するとともに、設備の共同利用化の促進等に向けた情報共有のシステム整備・充実を図る。</p> <p>【92-1】各理事は、担当業務における法令遵守に関する定期的な研修、講習会等を、教職員及び学生に対して実施がなされるよう内部統制を行い、各構成員の意識向上を図る。</p>	<p>平成28年度に構築した設備リユース仲介システムにより、平成30年度は61件(2/21現在)の登録があり45件の仲介が成立した。更なる利用向上と登録データの充実化に向けて、8部局の教員会議等における説明及び年度末の教員の異動にあわせた周知を行うとともに、利用者にとって分かりやすいシステムとなるようお問い合わせフォームなどの改訂を実施した。また、このシステムを活用し、岡山地域における設備の共同利用・リユース等を推進するため、県内の3大学と設備の共同利用協定を締結しており、平成30年4月に新たに倉敷芸術科学大学と協定を締結した。さらに、平成29年度に引き続き、岡山理科大学にて近隣3大学の機器分析センターの交流会を開催し情報交換等を行った。</p> <p>設備の有効利用を図るため共同利用を前提とした設備、あるいは共同利用の実績のある設備を対象に、リユース、修理及び技術強化のための費用支援事業を実施した。リユース及び修理支援に14件総額約1,560万円、技術強化支援に11件総額約123万円の支援を採択し、共同利用化の促進を図った。</p> <p>平成29年度に機器の整備計画の策定方法を見直し、協力体制を整えたことを受けて、平成30年度は主たる設備管理教員からなる3研究領域9グループの作業グループを立ち上げた。学内で保有している研究機器の設置・使用状況等を把握し、設備マスタープラン策定の基礎資料とするため、現有設備調査及び全学導入(更新)希望機器要望調査等を引き続き実施した。調査の実施にあたって項目や説明などをわかりやすく見直すとともに、マスタープラン掲載対象設備の管理教員を対象とする説明会を開催し、新しい設備整備計画策定方法及び作業グループの活動について、各作業グループで研究設備をシステム化する作業を行い、平成30年度中に取りまとめる予定である。</p> <p>放射線、動物及び組換えDNA実験における法令遵守に関する定期的な研修、講習会等を、教職員及び学生に対して実施し、意識向上を図った。</p>
⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標	⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
【総括記述欄】	
<p>自然生命科学研究支援センターの最重要業務である放射線、動物及び組換えDNA実験の支援とともに、教育訓練を通してコンプライアンス遵守の徹底を図った。設備・技術サポート推進室において、リユース仲介Webシステムを運用するとともに、部局を巡回して研究設備のリユース促進を呼びかける等、設備の共同利用及びリユースの促進を図った。</p> <p>学内共同研究の他、国内外の大学、機関との協力及び共同研究を積極的に進めた。</p> <p>平成31年度には、引き続きコンプライアンス重視の徹底、設備の共同利用・リユースの促進を図るとともに、老朽化設備の更新について対応する。</p>	